

■生物

植物

計画目標 ・生物多様性に資するため、市域に現存する植物が保全され、身近なところでふれあえるまちであること

現 状

■指標：身近な植物の生息地の把握状況

市域には次のような植物が生息しています。

地 域	種 類
生田緑地	クヌギ、コナラ、イヌブナ、ミズナギ、コナラ等の落葉広葉樹林、谷戸奥はワシバの群落
東高根森林公園	シラカシ、アヲカシ、ウツクシ等の常緑広葉樹林
早野の丘陵	主としてコナラ、クヌギの二次林、自然植生も残存、谷地にはワシバの群落やスギ類
黒川の丘陵部	コナラ、クヌギの二次林を主体にシラカシ等の自然植生残存
久末緑地	コナラ、コナラ、ミズナギを主体とした落葉広葉樹林、カマツキ、モリノキ竹林
多摩川河口部	シラカシ、ウツクシ等の塩沼植生

動物

計画目標 ・生物多様性に資するため、市域に生息する鳥、魚、小動物、昆虫が保全され、身近なところでふれあえること

現 状

■指標：身近な動物の生息地の把握状況

市域には次のような鳥、魚、小動物、昆虫等が確認されています。

- ・昆虫（出典：川崎市自然環境調査報告等）

種 類	名 称 等
トンボ	全市：55種類 モートンイトトンボ、シオカラトンボ 等
チョウ	全市：71種類 ウラナミアカシジミ、ベニシジミ 等

- ・鳥 類（全市：15目41科179種）（出典：川崎市自然環境調査報告等）

地 域	名 称
臨海部	シギ・チドリ 類 等
内陸平野部	ウグイス、コサギ 等
北部丘陵部	ミソゴイ、オオタカ、ヤマガラス 等

- ・小動物（出典：川崎市自然環境調査報告等）

種 類	名 称 等
哺乳類	全市：5目7科14種 タヌキ、ノウサギ、イタチ、アブラコウモリ 等
両生類・爬虫類	全市：4目12科22種 ニホンアカガエル、アズマヒキガエル、アオダイショウ、カナヘビ 等

- ・魚 類（全市：8目17科50種）（出典：川崎市自然環境調査報告等）

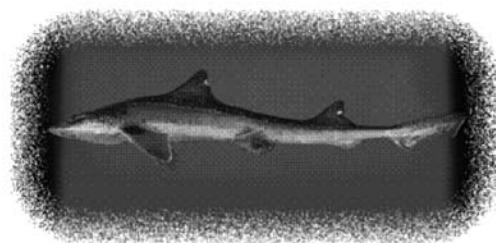
種 類	名 称
魚類	ホトケドジョウ、アユ、オイカワ 等

- ・水生生物（出典：川崎市公共用水域水質測定事業(市計画)(多摩川河口干潟における魚類調査)報告書、川崎港生物相調査業務委託報告書）

地域	名称
多摩川本川	アユ、マヒ、ビリゴ、マサ等の魚類　　ゴガ、打ガニ等の魚類以外の水生生物
川崎港	シロギス、ハナダイ、テヅカイ、マハサ、メカサ、ドサ等の魚類 ミドリガイ、ヒメガ、ホヨビ、ササガガニ等の魚類以外の水生生物



川崎港生物相調査地点



川崎港のサメ（ホシザメ）

主な施策の概要

具体的施策名	2010（平成 22）年度実績	2011（平成 23）年度計画等
--------	-----------------	------------------

Ⅱ-3-1 生物に関する情報の収集整理

Ⅱ-3-1-1 生物調査の実施

「自然環境調査」等による現存植生や生物生息調査の実施 〔環：環境対策課／公害研究所、教：青少年科学館〕	□調査実施地区数 ・生物の生息地調査の実施 親水施設調査3地点 ・市域の自然について調査し、資料を収集、整理した。 ・「第7次自然環境調査」をまとめた。	・親水施設調査3地点 ・市域の自然を調査し、資料収集整理し、まとめる。 ・継続して調査を実施 ・「第8次自然環境調査」について調査計画を構築する。
市内の希少な動植物等の生育・生息状況調査の実施 〔環：公害研究所〕	□動植物の生育・生息状況 ・希少生物調査3地点 □調査実施回数：4回	□動植物の生育・生息状況：継続 ・希少生物調査3地点（6回）
市内河川や河口干潟における水辺生物の調査の実施 〔環：環境対策課／公害研究所〕	□調査実施地区数： ・市内河川9地点（各1回） ・生物調査4地点（環境対策課分） ・干潟調査1地点（公害研究所分） ・東扇島人口海浜生物調査11回	予定 ・市内河川5地点（公害研究所分） ・生物調査4地点（環境対策課分） ・干潟調査1地点（公害研究所分） ・東扇島人口海浜調査1地点（月1回）

Ⅱ-3-1-2 生物に関する情報ネットワークづくり

環境調査や市民からの情報等の収集による市内の動植物に関する情報の整理 〔環：環境調整課／公害研究所、教：青少年科学館〕	市内の動植物確認数 ・植物：1,464種 ・哺乳類：14種 ・鳥類：179種 ・爬虫類：13種 ・菌類：455種	・市域の自然の全般調査
川崎港生物相調査 〔環：環境対策課／公害研究所〕	□大型海藻草類調査（5か所、年2回）	□川崎港親水施設生物調査（2か所、年2回）

Ⅱ-3-2 生息地の保全

Ⅱ-3-2-1 生息地の保全

自然的環境を有する土地における生態系の保全に資する動植物の生息地の保全指針の策定 〔建緑：緑政課〕	・里地・里山ミュージアム構想の実現に向けて黒川・岡上・早野の回遊性をはかり、「かわさき里山トレイルマップ」を作成した。 ・里地・里山ミュージアム構想の実現に向けて黒川地区をリーディング地区として、黒川街道特別緑地保全地区で園路整備を行い、地域団体・農業者と基本的な保全管理の検討を行った。	・里地・里山ミュージアム構想の実現に向けて黒川地区をリーディング地区として、地域団体・農業者と黒川街道特別緑地保全地区での活用を考慮した保全管理手法を検討する。
--	---	--

具体的施策名	2010（平成22）年度実績	2011（平成23）年度計画等
--------	----------------	-----------------

II-3-2-2 開発時の配慮

公共事業の実施において、対象地域内に生息地がある場合は、その保全・再生の推進 〔建緑：公園緑地課／緑政課〕	川崎市緑化指針に基づく指導・助言	指導を継続
民間による開発事業に対する生息地の保全・再生に向けた指導の実施 〔建緑：公園緑地課／緑政課〕	川崎市緑化指針に基づく指導・助言	指導を継続

II-3-2-3 緑地の保全

緑地保全制度の活用	【II-2-1-1 施策参照】	【II-2-1-1 施策参照】
樹林地の保全	【II-2-1-2 施策参照】	【II-2-1-2 施策参照】
農用地の保全・活用制度の充実	【II-2-2-1 施策参照】	【II-2-2-1 施策参照】

II-3-3 生息空間の創出

II-3-3-1 公共事業等に伴う生息空間の創出

河川の整備における漁礁ブロック、魚道の設置等、生物の生息環境への配慮の実施 〔建緑：河川課〕	□設置件数（累計） ・魚道：4か所(+1か所) ・漁礁ブロック：1か所(±0か所)	□計画 ・未定
大規模な公共事業等に伴う環境調査やアセスメントの際に、計画区域内の緑地の確保と生物の生息空間の創出への要請の実施 〔環：環境評価室〕	川崎市環境影響評価等技術指針に基づく指導：助言	継続して実施

II-3-3-2 都市緑化の推進

公共用地及び私有地の緑化の推進	【II-2-3 施策参照】	【II-2-3 施策参照】
-----------------	---------------	---------------

II-3-4 生物とふれあう機会の創出

II-3-4-1 自然観察会の実施

自然観察会や市民環境調査等の実施による市民が地域の自然・生物と親しむ機会の創出 〔教：青少年科学館〕 〔環：環境対策課／公害研究所〕 〔建緑：多摩川施策推進課〕	□自然観察会等の実施件数 ・夏休み多摩川教室：年1回開催 ・水生昆虫ふれあい教室：年1回開催 ・環境セミナー：年1回開催 ・東京湾の水質について説明・見学：年1回開催 ・水辺の楽校：月1回開催 ・河口干潟観察会：年20回開催 ・生田緑地観察会：年36回開催 ・自然観察会：年2回開催 ・子ども自然探検隊：年8回開催 ・子ども自然教室：年11回開催	□予定 ・夏休み多摩川教室：年1回開催 ・水生昆虫ふれあい教室：年1回開催 ・環境セミナー：年1回開催 ・夏休み水環境体験&地球にやさしい3R学習ツアー：年1回開催 ・水辺の楽校：3校計48回開催 ・河口干潟観察会：年10回開催 ・生田緑地観察会：年30回開催 ・自然観察会：年2回開催 ・子ども自然探検隊：年8回開催 ・子ども自然教室：年6回開催
---	---	--

■都市アメニティ

都市景観

- 計画目標
- ・建物や緑のデザインに配慮した都市空間や個性ある景観が保たれていること
 - ・屋外広告物等がまちの美観と調和し、良好な道路空間が創出されていること

現 状

■指標：都市景観形成地区数(2000年現在の地区数より増やすことを目指す)

市では、1994年12月に川崎市都市景観条例を制定するとともに、1996年には、この条例に基づき川崎市都市景観形成基本計画を策定し、2000年度末までに、川崎区たちばな通り、新百合丘駅周辺地区及び川崎駅西口大宮町の3地区を都市景観形成地区に指定しました。2005年3月に大山街道、7月に武蔵小杉周辺地区、12月に新百合山手地区、2006年8月に新川崎地区を指定しました。

アメニティ

「快適性、快適環境」と訳される。語源はラテン語のアマーレ（Amare=愛）。生活環境を構成する自然や施設、歴史的・文化的伝統等が互いに他を活かし合うようにバランスが取れ、その中で生活する人間との間に調和が保たれている場合に生じる好ましい感覚をいう。